

# これからの部活動に変化を与えるための一考察 ～体力・運動能力調査の結果から～

千葉県館山市立第三中学校 教諭 笹子竜侍

## 1 はじめに

本校は、房総半島の南端にある安房郡市という過疎化・高齢化の進む長閑な地域にあり、館山市は人口4万人ほどの小さな市である。安房地区には、館山市の他に南房総市、鴨川市、安房郡鋸南町がある。本校は館山市内中心部にあり全校460名ほどの中規模校であるが、安房地域の他の中学校は全校100名前後の小規模な学校がほとんどである。

そのため、各学校の部活動では、顧問となる教員や部員数の不足というどこの県でも抱えるマイナス面もあるが、部員数が少ないことからの合同チーム編成や、『チーム安房』という言葉を含い言葉に安房地区全体で取り組んだり活動したりする機会が多い。

平成30年3月19日にスポーツ庁から『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』が示された。また、多忙な教員が社会問題化され、その解消に向けた働き方改革も部活動運営に変化を与え始めている。これらを受け、各都道府県として方向性が示され、市町村教育委員会でもガイドラインが示され始めている。

このような動きから、各学校でもこれまでの部活動運営からの変化が必要となってきた。例えば、ガイドラインでは『平日1日、休日1日は部活動休養日を設定すること』や『平日2時間、休日3時間程度の活動時間』がクローズアップされたが、実際に部活動をする学校として可能かどうかを考えていかなければならないだろう。

このようなことから、教員として気持ちよく部活動を進めるために、また生徒が気持ちよく部活動に参加できるようにするためには何が必要で、どのように改善をしていくことが良いのかを各都県の皆さんと考えてみたいと思う。

## 2 研究のねらい

平成29年度の全国体力・運動能力調査の結果から、千葉県の中学校での1週間の部活動活動時間が全国で1番長いと報告された。

教員の勤務時間の長さが社会問題として取り上げられているが、毎日当たり前のように部活動に取り組んでいる公立中学校教員として、特別に長い活動であると感じたことがなかった。そのため、結果が公表され、他県と比較して本県が1番長いとされたことに驚いた。

そこで、全国的な調査の結果から、まず関東学校体育研究協議会に出席されている都県の調査結果や安房地区の各中学校の実施状況を調査し、全国規模の調査と比較・検討してみようと考えた。その結果からこれからの課題を把握し取り組みを考えたい。

また、運動部活動に関するガイドラインが示されたことにより、各学校ではどのような変化や工夫をしているのか、今後どのように対応しようとしているのかを調査し、これからの部活動運営に役立てたいと考えた。

## 3 研究の概要

まず、全国体力・運動能力調査の中から、部活動に関する項目で各都道府県の結果を調査する。また、安房地区各学校へのアンケート調査を実施し、各学校での部活動への取り組み状況を把握する。この全国的な調査と地区での調査を比較し、さらに県の結果と比較することで、支部での問題を明らかにし、新たな取り組みを考えたい。

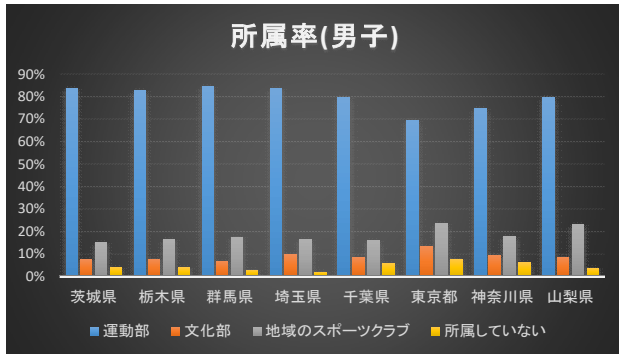
特に今回は、部活動の休養日や活動時間の長さが新聞やテレビで大きく取り上げられ、対応を求められている。そのため、各学校での活動時間や休部日の設定について調べることにする。また、それぞれの部活動顧問が抱える問題点やガイドラインが出される前とその後の部活動への変化や対応について調査し、よりよい部活動運営を目指した取り組みを考えていきたい。

#### 4 研究の実践

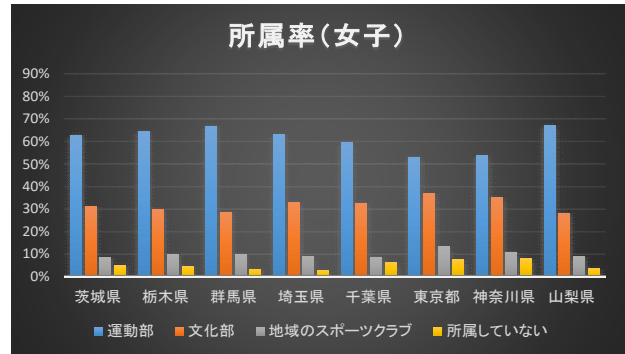
##### (1) 全国体力・運動能力調査の結果

##### ① 関東学校体育研究協議会参加都県の結果

グラフ1【部活動所属率（男子）】



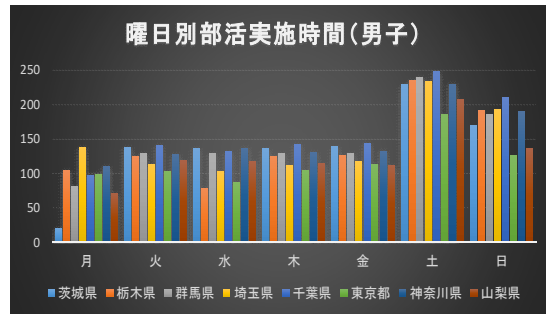
グラフ2【部活動所属率（女子）】



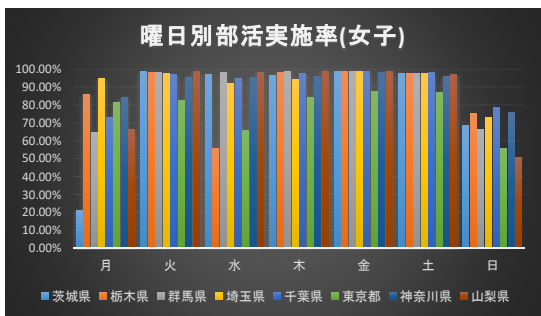
グラフ3【曜日別部活動実施率(男子)】



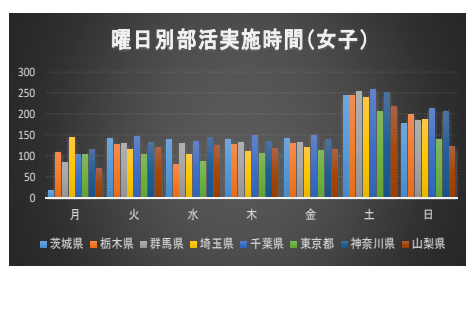
グラフ4【曜日別部活動実施時間(男子)】



グラフ5【曜日別部活動実施率(女子)】



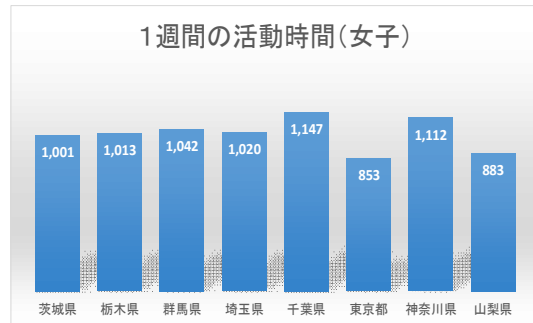
グラフ6【曜日別部活動実施時間(女子)】



グラフ7【1週間の活動時間（男子）】



グラフ8【1週間の活動時間（女子）】



グラフ1とグラフ2から、男子の運動部活動への所属率は80%前後でほぼ同じであるが、東京都の学校では、部活動への所属率は他の県と比べると低いが、反対にスポーツクラブへの所属率が20%以上と高くなっている。山梨県では部活動への所属率は他の県とほぼ同じであるが、スポーツクラブへの加入率も高い。女子の運動部への所属率は、60%前後であり、男子よりも20%程度低い。また、スポーツクラブも含めた運動部・スポーツクラブよりも文化部を選ぶ率が30%～40%であり、男女での差が顕著である。

グラフ3とグラフ5から、曜日別の部活動実施率を見てみると、茨城県の月曜日の実施率は他の都県と比べて非常に低く、埼玉県の実施率は高い。また、栃木県と東京都の水曜日の実施率は低い。また、全体的に見ると、東京都の部活動実施率は各曜日で低くなっている。

グラフ4とグラフ6から各曜日の実施時間は、上記の各曜日の実施率と同じように、月曜日と水曜日で部活動の実施時間に差が生じている。また、平日の実施時間は各都県ごとに多少の差がある。その中でも、千葉県は他の県と比べると各曜日とも実施時間が長い。特に、休日の実施時間を見ると、実施時間の少ない東京都や山梨県と比較すると、1時間以上の差がある。

グラフ7とグラフ8からは、1週間の部活動の合計活動時間の大小が分かるが、千葉県は男女ともに実施時間は一番長い。実施時間が短い東京都と比較すると、男子で170分、女子で120分という差になっている。

## ② 考察

運動部活動への入部状況を見ると、男子が約80%と女子が約60%と20%の男女差があるが、その活動実施率にも実施時間にも男女差はない。これは、生徒一人一人の興味関心の差に男女差があるからではないかと考える。しかし、実施時間の差がないことから、興味関心に沿った活動には男女差がなく、それぞれの目標に向かって取り組んでいると考える。

ほとんどの都県では、月曜日の部活動実施率が低いが、各校で部活動を実施しない日を設定していたり、会議等で実施できない日になっているのではないかと考える。

## (2) 安房地区のアンケート結果

体力・運動能力調査の千葉県の結果と安房地域の現状とを比較したり、ガイドラインが示されてどう変化してきているのかを各学校の運動部活動顧問に対するアンケート調査を実施した。

①	部活動顧問の年齢	安房地区	(H30) 38.5歳
②	1日の活動時間(平日)	千葉県 139分	安房地区(H29) 116分 (H30) 115分
③	1日の活動時間(休日)	千葉県 247分	安房地区(H29) 237分 (H30) 223分
④	1週間の活動日	千葉県 —	安房地区(H29) 5.7日 (H30) 5.1日
⑤	1ヶ月の活動日	千葉県 —	安房地区(H29) 23.8日 (H30) 21.6日

ガイドラインを受けて次の項目でアンケートを実施した。

- ⑥ ガイドラインが示される前後での変化はあるか。
  - ・学校全体で、平日1日、休日1日の休養日を設定するようになった。
  - ・月曜日がノ一部活動デーだったが、他の曜日に移動した。
  - ・休日の部活動時間を短くした。
  - ・まだ変更はしていない。(市教委から方針が出されていないため)
- ⑦ 部活動は教育的効果があると思うか。
  - ・思う。(全員)
- ⑧ 部活動で大切にしていることは何か。
  - ・挨拶、礼儀、社会性 ・大会成績 ・技術向上 ・体力向上
- ⑨ 今後の部活動の変化について何か意見はあるか。
  - ・休養日が増えることで他のことに時間が使えるので良い。
  - ・体力低下や生徒指導面で不安がある。
- ⑩ 部活動顧問をして負担感はあるか。
  - ・ある(15%) ない(85%)

(3) (1)と(2)の結果から

千葉県の子どもの平日の活動時間が139分であるのに対して、安房地区は116分であった。平日に2時間を越えて活動を行う県は半数有るが、140分を越えることもある千葉県全体からすると、2時間弱という活動時間は他県とほぼ同じだった。また、ガイドラインに関係なく1日の活動時間が同じだった。休日の活動時間は、ガイドラインが示されてから短くなっている。これは顧問が積極的に効率の良い練習をしようとしている結果ではないだろうか。同様に、1週間の活動日も5.7日から5.1日に減っている。これは、ガイドラインに沿って週2日休養日を設定しようという学校が増えている結果といえる。

ガイドラインが示されてから多くの学校で変化があった。2日間の休養を設定するだけでなく、それまで月曜日を設定していた学校が、土日のいずれかと合わせるために水曜日や木曜日に設定し直したりしている。これは、単に部活動をするだけでなく、休養日の設定を含めて効果的なトレーニングを実践している証だと考える。

また、学校教育の一環として行う部活動であり、全員が教育的意義があると答えたことは、これからも安房地区の部活動運営に影響を与えていくと思う。そして、部活動で大切にしていることが、礼儀や挨拶、チームワーク、人間関係といった部活動以外でも大切にしなければならないことを顧問が意識していることは、学校教育の一環として行われている部活動の良さであり、これまでもこれからも大切に続けていくべきことであると考えます。

## 5 研究のまとめ

### (1) 成果

全国体力運動能力調査の結果から関東地区の他県や千葉県の結果と安房地区の結果を比較してみると、自分たちにこれまでの活動を顧みることができた。その中でも活動時間が1番長い千葉県が変化しなければならないことが分かったことはこれからの活動に生かすことができる大きな成果だと感じた。

部活動の運営では、この夏の暑さからもこれまでの当たり前が当たり前ではなくなりつつあるので、それぞれの部活動で変化が必要となる。この研究協議会で他県の取り組みなどを知り、これからの活動に生かすことでより成果あるものにできると思う。

また、安房地区の各校からのアンケート結果から、県全体の取り組み、全国の取り組みの結果と比較しての安房地区全体の方向性をみることもできた。

### (2) 課題

全国的な傾向や方向性を知ることはできたが、各学校や各部活動で、実際に生かせるような具体的な取り組みを考案するところまでは達成できなかった。しかし、今回のこの発表をもとに協議し、各学校や各部活動に合った形で生かされれば、よい変化につながると思う。

ガイドラインが示されたことで、部活動に変化を与えることは分かったが、ただ休養日を増やすだけではなく、練習計画、練習内容の工夫の仕方についても今後研究していく必要があると感じた。